

転移する力をつけるための指導の工夫

～視点の定着をめざして～

長野県下伊那郡売木村立売木中学校 中島博文

転移する力を求めて

中項目「都道府県」の取り扱いについて、「学習指導要領解説—社会編」（文部省著、大阪書籍）は、次のように記している。

取り上げる事例を二つ又は三つの都道府県に厳選し、各事例については十分な授業時数を配当して実際に地域的特色を追究する活動を行い、生徒に学び方を学ばせることによって、取り上げなかった都道府県の地域的特色についても必要に応じて調べる能力を育成することを意味している。

私は、学習指導要領解説の文言「学び方を学ばせることによって、取り上げなかった都道府県の地域的特色についても必要に応じて調べる能力」を「転移する力」と考えた。

「転移する力」を求めて、目のつけどころ（＝視点）を考えさせる授業を行った。視点に基づいて調べる力がつけば、所（都道府県）が変わっても自力で追究できると考えたからである。さらに次のような仮説を考えた。

2 仮説

(1) 例題地域としての都道府県と、練習問題の地域としての都道府県に分け、例題で学んだ学び方を練習問題に生かせるようにする。

- (2) 例題地域での学び方を次のようにする。
次の①②が定着すれば、練習問題として取り上げた都道府県の地域的特色を自らの力で調べ、明らかにできるだろう。
- ①対象地域の地域的特色に迫ることができる追究の視点を挙げられるようにする。
 - ②視点の次に、視点に基づいて何を調べればよいのかを明らかにさせる。

3 実際の授業

(1) 単元名・学年

「多面的に調べる～長野県を例にして～」
中学1年生

(2) 主目標

- ①都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法がわかる。
- ②多面的に調べる方法において、長野県の調査で学んだ学び方をもとに他の都道府県の地域的特色も調べることができる。
- ③長野県を多面的にとらえた特色（位置と自然、人口と交通網、農業、工業、観光、地域差など）がわかる。

4 第1時「長野県の位置」の授業

生徒たちは級友の意見と関連づけながら、長野県の位置に関する「視点」と、その「調べ方」を挙げた。（生徒名はすべて仮名）

T 1 「長野県の位置を表したい。目のつけどころ、視点は何ですか。地図帳に載っている地図から考えてください。長野県の位置の視点を使って、他の県の位置も表せるかを意識しながら視点を考えます」(中略)

T 3 「視点がたくさん挙がりましたね。素晴らしい。次に、挙がった視点について、具体的に何を調べればよいか見ていきましょう。さっき春男君が『緯度では南北端の緯度を調べる』と発言しましたね。春男君、地図で南北の端を示してください」

香奈「わあー、長野県は岐阜の上に乗っている」

T 2 「位置を表すのに南北端の緯度で表す。他に、長野県の位置を緯度に着目して表す方法を見つけてみましょう。地図をじっくり見て考えてみてください」

春男「長野県を関東地方の上に持っていく」

陽子「関東地方に長野県を重ねてみればよい。海沿い、太平洋に重ねてみる」

益男「長野県の北の端が関東地方のどこに重なるか、南の端がどこに重なるかを調べる」(実際にスライドさせたあと)

秋男「えっ、北端は関東地方ではなくて、いわき市、福島県です。南端は横浜よりも南で、鎌倉です」

祥子「西に持っていくと、富山市より北で、そこから琵琶湖まで長野県だ。大きい」

T 4 「位置を表すのに、他の県の上に重ねてみたり、南北端を東西にスライドさせたりして調べることもできますね。次に隣接県について何を調べますか」

夏夫「どこと接しているか。いくつの県と接しているか」(3分間の作業後)

愛子「長野県は新潟、群馬、埼玉、山梨、静岡、愛知、岐阜、富山と8つの県と隣接し



ている」

亜佐美「私が以前住んでいた大阪府では4つなのに長野県は多い。多すぎ」

聡美「大阪は海に面している。長野県は海に面していないし、隣接県が多い」

(以下、略)

5 第2～3時「長野県の自然」の授業

①日本全国から見て、長野県の地形の特色を調べる「視点」を挙げさせた。

②①で挙がった視点の調べ方を、長野県の地図を見て考えさせた。次のようである。

*山地山脈はどの付近に広がっているか。

*盆地はどのように広がっているか。

*河川はどの方向に流れているか。

生徒たちは、長野県の川が太平洋側と日本海側に流れることに驚きを持った。

③日本全国から見て、長野県の気候の特色を調べる「視点」を挙げさせた。

6 第4時例題『長野県の位置と自然』の練習問題『長崎県の位置と自然』の授業

(1)長野県の練習問題の県として、なぜ、長崎県を選択したか

例題「長野県の位置と自然」の練習問題として、長崎県を選択した理由は以下の通り。

地図帳の日本列島の地図より、長崎県は標

高で緑色の着色が多いことから、標高が低く平地が多いと読み取るだろう。しかし、地図帳の九州地方の地図で読み取ると、長崎県は標高が低いにもかかわらず、森林・その他の分布が多く、山地が海に迫っていることが読める。「標高が低い地域＝平地が多い」という生徒たちのそれまでの見方を事実で揺さぶり、「標高が低い地域でも平地が乏しい」という新たな見方を「ああ、そうか」と腑に落ちる形で獲得させることができると考えた。

(2)実際の授業

生徒たちは、例題「長野県の位置と自然」で獲得した視点を、長崎県で手堅く生かそうとしていた。長崎県の地形に関する視点として、「海」「島」「乏しい平野」などを挙げることができた。視点「平地が多い」を挙げた生徒は皆無だった。春男君は視点を「島」とし、地図をじっくり見ることで「島が多く、とて

もたくさんある」と表現した。

長野県の学習時、学級の生徒たちは長野県の南北端が福島県～神奈川県と重なることに驚きを持ったが、益男君はこの「広域に見る」調べ方を生かし、長崎県の位置を「北は大韓民国との国境に位置する対馬まで広がる」と記すことができた。

私は生徒たちの学びの姿から次のことを学んだ。

例題に対しての練習問題であるから、まずは長野県と同じ視点でアプローチさせる。練習問題の県を、例題と同じ視点で見たあと、「長野県にはない新たな視点として、○○がある」と書かせたい。

- ・長野県と同じ視点は○○で、その視点から長崎県を見ると◎◎だ。
- ・長野県にはない視点は○○で、その視点から見た長崎県の特徴は◎◎だ。

【春男君の学習カード】

【学習問題】
「長野県の位置と自然」で学んだ学び方を生かして地図帳に載っているいろいろな地図を使って「長崎県の位置と自然」を明らかにしよう。

1 長崎県の位置 視点 (monnez) と特色
長崎県の位置、地形の特色を見る3つの視点
1. 島(形) 長崎県は日本の南部に位置するが九州では北部に
2. 標高 位置している
3. 海

2 長崎県の自然(地形) 視点 (monnez) と特色
1. 島(形)……日本の都道府県の中で一番複雑な地形を持っているその一番の理由は島の位置と複雑な海岸線である島が日本の中で一番多くしかも本島付島があるから独特の景観を作り出している県全体が半島(おの)島(西彼半島)としてなっている。(この図のよみかた)

2. 標高……海の島の見下り地が多い。見るか南の方に平地が集中しており北の方以外は平地は殆ど0-600mの標高(おの)丘陵の県である。

3. 海……複雑な島形、海岸線に比べて海はあまりからけあらず湾や瀬が大手をしている。流れる川が狭く、海水は停滞していると思う。(おの)

3 県の自然(気候) 視点 (monnez) と特色
山と海(とても対照的)だ

【益男君の学習カード】

【学習問題】
「長野県の位置と自然」で学んだ学び方を生かして地図帳に載っているいろいろな地図を使って「長崎県の位置と自然」を明らかにしよう。

1 長崎県の位置 視点 (monnez) と特色
長崎県は、九州の凸部に位置し、西は熊本県との境の天草諸島、北は大韓民国との国境に位置する対馬まで広がる。大変島の多い県でもある。
視点……海、島、平野

2 県の自然(地形) 視点 (monnez) と特色
長崎県の地形は、周囲が佐賀県との境以外全て海で、対馬や舌坂をはじめ多くの島によって形成されている。県庁所在地の長崎は、佐世保などのまわりに集中し、県の海をいれあずかな平野が見られるだけであり、平野は、島、海によって発展しているとする。
島が多いため、県境の長さやともなる。
平野の土地利用は、内側の海(遠く)の所に果樹園、田畑がある。県内所在地の長崎は、ほとんど市街地である。
島が多いため、都会の交通網のようなものがとても多く、対馬が、他の島とつながっている。
おの(おの)の(おの) 古くから中国大陸に通じたため、江戸時代にも港が行われた。

3 県の自然(気候) 視点 (monnez) と特色